



TITLE:

サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

松林, 清明; 後藤, 俊二; 鈴木, 樹理; 松林, 伸子

CITATION:

松林, 清明 ...[et al]. サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1989, 19: 30-32

ISSUE DATE:

1989-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163945>

RIGHT:

有林の天熱林施業と関連して一、日本科学者会議シンポジウム。

- 4) Watanabe, K. and Brotoisworo, E, (1988): Present situation of Sulawesi macaques. Symposium of Asian-Pacific Mammalogy.
- 5) 渡辺邦夫・山口直嗣・冠地富士男 (1988): 宮崎県南部に生息するニホンザル集団について。第4回霊長類学会。

サル類保健飼育管理施設

松林清明 (施設長・兼)・後藤俊二
鈴木樹理・松林伸子¹⁾

研究所で保有するサル類の総頭数は、出産や死亡により日々増減しているが、1年間で最も飼育頭数の大きくなるいわばピーク月は、春から初夏にかけてのマカクの出産期の直後にやってくる。

1988年度には6月末に920頭に上った。これは現在と同規模の施設予算に初めて達した1981年度のピーク月(7月:655頭)の40%増になる。近年は比較的穏やかな物価水準で推移してきたとはいえ、予算額すえ置きのままサル保有頭数だけが大幅に増加してきたわけで、これの影響は例えば治療・検査薬品費、飼料費の増大と、逆にケージ補修費、消耗品費、備品購入費の圧縮などに表われてきている。サルの飼育水準の維持・向上と施設自身の活動の為には、マイナスの傾向を強めていると言えよう。加えて1989年度からは消費税負担が始まり、飼育経費など固定的要素の多い施設運営予算には大きな打撃となる。一方予算交付額が急に増える見通しも立たず、止むなくサル保有頭数を数年がかりで100頭程度削減する計画を立て、サル委員会の議を経て、1988年12月の協議員会で了承された。この頭数削減が研究所全体の研究活動に支障をもたらすことは極力避けねばならないが、幸い所内繁殖も依然順調であり、性・年齢構成の見直し等によって出産数は大きく変わらない見込みである。サル頭数削減は研究所開設後初めての処置であり、実験用のサルが足りずに苦労していた頃を思うと昔日の感があるが、適正なサイズに戻して投資効率を高め、動物飼育の質を維持するための止むを得ない方策である。

1) 教務職員

施設の活動としては海外出張が増え、松林施設長が7~8月に南米、11月に中国を訪問して学会発表や研究交流を行ったほか、鈴木助手が7~9月にタイへ調査に赴き、三輪技官が6~7月にマレーシアへ出張して技術指導を行った。人事では事務補佐員今井志江が3月に退職、後任に浜上希が採用された。

研究概要

1) サル類の繁殖に関する研究

松林清明

ニホンザルの繁殖成功度を左右する生理的要因のひとつとして、オスの連続射精時の精液性状の変化を調べた。また飼育下および野生群での二次性比および一才性比を調べ(常田英士氏との共同研究)、結果を公表した。

2) 実験動物としてのサル類の評価

松林清明

ニホンザルの高所適応能力を見るため、名大環境医学研究所と共同で低圧実験を行い、各生理値の変動を調べている。

3) 霊長類の寄生虫に関する研究

後藤俊二

(i) 野生ニホンザルを対象に、消化管内寄生虫相の地域差・生息環境との関連について調査、資料蓄積を進めている。

(ii) サル糞線虫の、その固有宿主における感染様式を明らかにするため、ニホンザルを用いた感染実験を行った。²⁾

4) サル類の成長の生理学および形態学的研究

鈴木樹理

各種サル類の成長を、血中各種ホルモン・酵素などの定量並びに生体計測によって解析した。また血中各種ホルモン・酵素の日内変動を明らかにするために、ベスト着用カニューレーション法による連続採血を行った。

5) サル類疾病の病理学的研究

鈴木樹理

本研究所および野外で死亡したサル類について主に、死亡率の高いと思われる出生直後から幼若齢までの死亡率を中心に、病理学的検索を行い、

- 2) 金子清俊・角坂照貴(愛知医大)、千種雄一(独協医大)、塩飽邦憲(島根医大)との共同研究。

そのおもな原因および年齢による疾病傾向および各種疾病の病理形態の解明を行った。

論 文

- 1) Takenaka, A., Gotoh, S., Watanabe, T. and Takenaka, O. (1988) : Developmental changes of plasma alkaline phosphatase, calcium, and inorganic phosphorus in the Japanese macaque (*Macaca fuscata*). *Primates* 29:395-404.

総 説

- 1) 松林清明(1989) : チンパンジー、ニホンザル。実験動物の生物学的特性データ (田嶋嘉雄監修)、ソフトサイエンス社。

学会発表

- 1) Matsubayashi, K. and Nozawa, K. (1988) : Principles of reception, breeding and use of Japanese monkey (*Macaca fuscata*) in Primate Research Institute, Kyoto University. Abstracts of the XIIth Congress of the International Primatological Society (Supplement), 4.

- 2) Matsubayashi, K. (1988) : Experimental use and breeding of Japanese monkey in Primate Research Institute of Kyoto University. Abstract of the 2nd workshop on research and development of laboratory animals under the Sino-Japanese cooperation agreement on Science and technology (Supplement).
- 3) 松林清明 (1988) : 霊長類飼育・使用指針実施後2年間の諸問題. *Experimental Animals*, 37(4):507.
- 4) 松林清明・常田英士(1988) : ニホンザル・アカゲザルの二次性比と1才性比. *霊長類研究*, 4(2) : 168.
- 5) 千種雄一・塩飽邦憲・金子清俊・後藤俊二 (1988) : *Strongyloides fulleborni* のニホンザルにおける感染実験. 第57回日本寄生虫学会大会、寄生虫学雑誌、37(Suppl.) : 93.
- 6) Fukui, M., Furukawa, T. and Gotoh, S. (1989) : On the ocular fundi of several species of primates and other wild species. 1989 Conference of the International Society of Veterinary Ophthalmology. Harrogate, England.

1988(昭和63)年度サル類動態表

区 分 種 名	導 入			出 産	死 亡							
	校 費	科 研 費 等	寄 附		実 験 殺	外 傷 死	術 後 不 良 等	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	泌 尿 器 系 疾 患	脳 神 経 系 疾 患	不 明 ・ そ の 他
コ モ ン ツ パ イ			4		4							2
オ オ ガ ラ ゴ				1								2
コモンマーモセット							1					
ワタボウシタマリン				6		3						2
ヨ ザ ル				1								2
ノドジロオマキザル											1	
フサオマキザル				1								
リ ス ザ ル	1		1		1							1
ニ ホ ン ザ ル			3	55	37	1		5	6	1		5
ア カ ゲ ザ ル				50	14	1	2		3			4
タ イ ワ ン ザ ル	4		1	2	1	1						
カ ニ ク イ ザ ル				9	13		1					2
ボンネットザル				2	1	1						
ア ッ サ ム ザ ル									1			
セ レ ベ ス マ カ ク												1
マ ン ト ヒ ヒ		3		1	4			1				
小 計	5	3	6			7	4	6	10	1	1	21
合 計		17		128	75				50			

1) 増加総頭数－減少総頭数＝差引増加頭数

145 - 125 = 20(増加)

1988(昭和63)年度末飼育頭数

種 名	頭 数	種 名	頭 数
コ モ ン ツ パ イ	11	ア カ ゲ ザ ル	252
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	5	タ イ ワ ン ザ ル	16
オ オ ガ ラ ゴ	3	ブ タ オ ザ ル	4
コモンマーモセット	4	ベ ニ ガ オ ザ ル	4
ワタボウシタマリン	16	ボ ン ネ ッ ト ザ ル	16
ヨ ザ ル	9	カ ニ ク イ ザ ル	44
リ ス ザ ル	4	ア ッ サ ム ザ ル	2
フサオマキザル	9	セ レ ベ ス マ カ ク	2
チュウベイクモザル	1	マ ン ト ヒ ヒ	8
ケナガクモザル	1	シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ミ ド リ ザ ル	6	ア ジ ル テ ナ ガ ザ ル	2
パ タ ス ザ ル	2	オ ラ ウ ー タ ン	1
ミドリザル×パタスザル	2	チ ン パ ン ジ ー	10
ニ ホ ン ザ ル	424	合 計	860